

# 【 杵 築 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：国語

	全体	学習指導要領の内容				
		言葉の特徴や使い 方に関する事項	我が国の言語文 化に関する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと
杵築市	68	73.3	85.2	67.4	47.9	67.1
大分県	66	70.0	83.1	65.3	49.1	65.1
全国	65.6	69.0	77.9	66.2	48.5	66.6

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」（知識及び技能）ことに改善が見られた。
- 「話すこと・聞くこと」領域の「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」（思考・判断・表現）ことは全国平均を5.3ポイント上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」領域の「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」（思考・判断・表現）に課題がある。
- 「書くこと」領域の「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」（思考・判断・表現）に課題がある。
- 正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より少なかった。（市：3.4% 県：5.2% 全国：6.6%）
- 14問中13問で、無解答率が全国値より低かった。また、そのうち無回答率0%が4問あり、自分なりの考えを持って粘り強く書いている児童が多かった。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：国語

- ① 「漢字を文の中で正しく使う」ことについては、今後も継続して漢字のもつ意味を考えながら使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付ける。その為に、国語辞典や漢字辞典を活用して意味を調べたり同音異義語を使い分けた短文作りをしたりする学習などを取り入れる。また、タブレット等で既習の漢字の習得を図っていく。言語能力の育成は必須であり、読書活動の推進も図る。
- ② 国語科での言語活動において、書く活動を取り入れ自分の考えをまとめさせ、表現させる学習を積み重ねてきた。話し合い活動を取り入れる際は、話し合う目的や意図を明確にしたうえで、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるよう、多様な表現を話し合いの中で用いることにより話し合いの質の向上を図っていく。
- ③ 「書くこと」については、自分の文章のよいところとして、第1・2学年では「内容や記述などに見られる具体的なよさ」、第3・4学年では「書こうとしたことの明確さ」、第5・6学年では「文章全体の構成や展開の明確さ」などを見付けることができるように、系統的に指導する。

# 【 杵 築 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：算数

	全体	学習指導要領の領域			
		数と計算	図形	変化と関係	データの活用
杵築市	64	72.2	65.0	50.0	71.9
大分県	64	70.7	64.4	51.4	68.8
全国	63.2	69.8	64.0	51.3	68.7

- 「数と計算」の領域は、概ね良好であり「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる（知識・技能）」は全国平均を3.2ポイント上回っている。
- 「データの活用」の領域は、概ね良好であり「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる（思考・判断・表現）」は全国平均を4.0ポイント上回っている。
- 「変化と関係」の領域で「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる（知識・技能）」に課題がある。
- 「変化と関係」の領域で、「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している（知識・技能）」に課題がある。
- 正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より少なかった。（市：2.0% 県：4.6% 全国：5.7%）
- 16問中全ての問題で、無解答率が全国値より低かった。また、そのうち無回答率0%が3問あり、自分なりの考えを持って粘り強く書いている児童が多かった。

#### 小学校：算数

- ① 「データの活用」は前年度からの改善方策「複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断できない事柄について判断するためのグループでの話し合い活動」が効果的であったと思われる。今後も継続して取り組むことで一層の定着を図っていく。
- ② 長方形やひし形の意味や性質、構成の仕方についてよく理解できている。半面、図形の構成する要素に着目し、見方・考え方をはたらかせ、図形を判断し説明することができていないと考えられる。辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、作図の仕方を筋道立てて説明したりすることができるようにする活動を様々な場面で取り入れ、説明する活動を設定する。
- ③ 割合を用いて問題を解決する場面において、数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらないことを理解できていなかったと考えられる。日常の場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導する。
- ④ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や家庭学習で取り組み、定着を図る。

# 【 杵 築 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

### 1 調査結果の分析

#### 小学校：理科

	全体	学習指導要領の区分・領域			
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
杵築市	66	51.2	63.4	76.8	69.5
大分県	64	51.9	61.6	73.9	66.9
全国	63.3	51.6	60.4	75.0	64.6

- 「地球」を柱とする領域は、概ね良好であり、「観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる」（思考・判断・表現）では全国平均を7.2ポイント上回った。
- 「エネルギー」を柱とする領域で、「問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している」（知識・技能）に課題がある。
- 「エネルギー」を柱とする領域で、「実験の方法を検討して、改善する」（思考・判断・表現）に課題がある。
- 正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より少なかった。（市：3.9% 県：4.2% 全国：4.8%）
- 17問中16問で、無解答率が全国値より低かった。また、そのうち無回答率0%が6問あり、自分なりの考えを持って粘り強く書いている児童が多かった。

### 2 具体的な改善方策

#### 小学校：理科

- ① 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことはできている。知識をより深く理解できるようにするために、日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定する学習が効果的であったと考えられる。今後も継続して取り組むことで一層の定着を図っていく。直接観察できない場合は、インターネットなどを用いて、画像や映像を利用する。
- ② 実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定する。問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として大型提示装置やタブレット等を用いて学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくり出す学習活動の推進を図る。
- ③ AIドリルを活用し、基礎的・基本的知識や用語の定着を図る。

# 【 杵 築 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：国語

	全体	学習指導要領の内容					
		言葉の特徴や 使い方に関する 事項	情報の扱い方 に関する事項	我が国の言語 文化に関する 事項	話すこと・聞 くこと	書くこと	読むこと
杵築市	71	74.0	54.5	72.1	65.6	54.5	68.4
大分県	69	72.5	47.9	70.6	63.7	47.9	67.5
全国	69.0	72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9

□全14問（選択式5問・短答式5問・記述式4問）であった。前回、記述式は全国と比較し3.8ポイント低くなっていたが、今回は全国正答率57.4%であるのに対して杵築市61.3%と改善が見られた。

□「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で「文脈に即して漢字を正しく書く」（知識・技能）で改善が見られた。

■「話すこと・聞くこと」領域で「論理の展開などに注意して聞く」（思考・判断・表現）に課題がある。

■「読むこと」領域で「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える」（思考・判断・表現）に課題がある。

□正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より少なかった。（市：2.4% 県：4.3% 全国：4.1%）

□14問中13問で、無解答率が全国値より低かった。また、そのうち無回答率0%が7問あり、自分なりの考えを持って粘り強く書いている生徒が多かった。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：国語

① 今年度成果が見られた「書くこと」領域や、「文脈に即して漢字を正しく書く」ことについては、継続した作文指導により、段落構成を考え、見通しを立てて書かせたり、書いた文章を互いに読み合わせたりして、文章の構成の工夫を考える活動に今後も取り組む。さらにタブレットを活用し、反復学習を行うことも考えられる。

② 同じく成果が見られた記述式問題については、各学校の授業改善による思考ツールの活用や、学びあいの場の設定が効果的であったと思われるため、今後も継続して取り組む。

③ 「話すこと・聞くこと」については、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫する活動に取り組む必要がある。

④ 「読むこと」については、指導に当たって実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認めたりして登場人物の心情の変化などについて捉えさせる活動に取り組む必要がある。

# 【 杵 築 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：数学

	全体	学習指導要領の領域			
		数と式	図形	関数	データの活用
杵築市	53	65.2	39.9	44.3	56.0
大分県	52	60.9	40.9	41.9	56.6
全国	51.4	57.4	43.6	43.6	57.1

□全14問（選択式4問・短答式5問・記述式5問）であった。前回、短答式・記述式は全国値を下回っていたが、今回は短答式で全国正答率65.7%に対して杵築市71.0%と改善が見られた。記述式については、前年度の正答率を5ポイント上回ったが、全国値に0.8ポイント及ばなかった。

■「図形」領域の「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」（思考・判断・表現）で全国値を7.7ポイント下回り、課題がある。

■「データの活用」領域の「図から分布の特徴を読み取ること」（知識・技能）は改善の傾向が見られたが、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」（思考・判断・表現）で全国値を5.7ポイント下回り、課題がある。

■正答数3問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より多かった。（市：7.3% 県：3.5% 全国：3.9%）

□14問中11問で、無解答率が全国値より低かった。また、そのうち無回答率0%が5問あり、自分なりの考えを持って粘り強く書いている生徒が多かった。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：数学

- ① 「振り返り」の場面で、振り返りシートを活用する。理解が不十分な生徒に対し個別に教材を用意し取り組ませることにより、学習内容の定着を図る。
- ② 「図形」については、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動（ペア・グループ活動を含む）を取り入れ、事柄が成り立つ理由について数学的に説明できるよう指導する必要がある。
- ③ 「データの活用」についても、データを読みとった上で、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりする活動（ペア・グループ活動を含む）を取り入れ、事柄が成り立つ理由について数学的に説明できるよう指導する必要がある。
- ④ 上記の改善方策や1人1台端末の活用を取り入れた授業について、数学習熟度別指導推進教員の授業研において公開し、多くの教員が参観することによって、どの学校でも全ての生徒が考え表現する授業を実施できることを目指す。
- ⑤ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図る。

# 【 杵 築 市 】

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

### 1 調査結果の分析

#### 中学校：理科

	全体	学習指導要領の区分・領域			
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
杵築市	50	42.5	52.2	56.0	45.1
大分県	49	41.8	52.5	56.7	44.5
全国	49.3	41.9	50.9	57.9	44.3

■全21問（選択式15問・短答式1問・記述式5問）であった。選択式の正答率は全国値を上回ったが、短答式で3.3ポイント、記述式は2.4ポイント全国値を下回った。記述式の中で思考・判断・表現を評価の観点とする問いに課題が見られた。

□「エネルギー」、「粒子」、「地球」を柱とする領域で全国値をやや上回った。

■「生命」を柱とする領域の「実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行う」、「比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析する」（思考・判断・表現）に課題がある。

□正答数4問以下（正答率20パーセント未満）の割合は全国・県より少なかった。（市：5.7% 県：6.9% 全国：6.7%）

□21問中15問で、無解答率が全国値より低かった。また、そのうち無回答率0%が9問あり、自分なりの考えを持って粘り強く書いている生徒が多かった。

### 2 具体的な改善方策

#### 中学校：理科

- ① 今回成果が見られた知識・技能を評価の観点とする問いについては、小テストやA Iドリルによる反復学習を継続し、より一層の定着を目指す。
- ② 「生命」を柱とする領域で、観察結果を比較し、生物の体のつくりのちがいを考察する学習場面を多く取り入れる。その際、1人1台端末や、大型提示装置を有効活用する。
- ③ 実験の計画を立案する際、課題を解決するために適切な探究の方法について、ペア・グループ学習による話し合い活動を通して確認する学習場面を設定する。課題を解決するまでの探究の過程を見通すことができるよう指導する。
- ④ 授業の振り返り場面において、授業で学んだことを記述形式で振り返ったり、実験の考察場面では、自分の言葉で科学的な見方・考え方を働かせた記述場面を多く取り入れたことにより、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
- ⑤ 課題が見られる問題については、類似した問題を用いながら補充学習や週末課題（家庭学習）で取り組み、定着を図る。